

セタコンサートが開催されました



本院では、年に2回患者さんや来院者に向けたロビーコンサートが行われています。

今年は7月12日(木)に1回目のロビーコンサートが開催され、きらめきプロジェクト所属のメンバー2名が出演しました。

コンサートはピアノ独奏、九大混声合唱団によるアカペラ、九州大学馬出吹奏楽部による合奏と盛りだくさんなプログラムで、来場された患者さんからは「元気をもらい長い入院生活の一つの良い思い出ができました。感動をありがとう！」

「思ってもない楽しい時間ありがとうございました。下ばかり向いていた自分に気が付きました。元気だして頑張ります。またの出会いを楽しみにしています。」などの感想をいただきました。



コンサートの最後に、きらめきプロジェクトの活動についても簡単に紹介させていただきました。

来院される患者様に質の良い医療が提供できるよう、医療人がいきいきと働けるような職場環境になるようきらめきプロジェクトはこれからも尽力してまいります。

きらめき通信 vol.46

2018年8月(隔月発行予定)



レディースコンパが開催されました

6月26日(火)にレディースコンパが開かれました。

レディースコンパとは、九州大学医学部に通う女子学生が、先輩や後輩、先生方と交流するための会で、年に一度開かれています。



普段、講義や実習で忙しい医学部の学生さんにとってレディースコンパは他学年の学生さんと交流できる数少ないチャンスです。当日は思い思いのお洒落をして参加します。

きらめきプロジェクト副センター長である樗木晶子先生も参加し、卒後起こりうる休職や離職に繋がる可能性の高いライフイベント時に医師としてのキャリアを継続させていくためにはどのように対処したらいいのか等のアドバイスをされました。

九州大学病院

きらめきプロジェクトキャリア支援センター

〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1

TEL・FAX: 092-642-5203

M A I L: kirapro@kirameki.med.kyushu-u.ac.jp

U R L: <https://www.kyudai-kirameki.com/>



HP

医師

日々頑張っている、きらめきプロジェクト所属のドクター（医師 1 名・歯科医師 1 名）を紹介します。

卒後 14 年目の消化器内科医師です。内科医師の夫と娘(8 歳)、息子二人(4 歳、2 歳)の五人家族です。

卒後 3 年目に結婚し、大学院在学中の卒後 6 年目に長女を出産。大学院では育児しながら博士号を取得し、大学院終了後に長男、次男を出産。大学院在学中は検診の胃カメラ業務を続け、大学院終了後は長男、次男の出産、育休の合間に関連病院でブランクのあった大腸内視鏡検査を再開。仕事、育児、家事を両立する自信は無い一方、内視鏡診断や技術を向上したいという希望、認定医や専門医の取得という目標もあり、卒後 13 年目にきらめきプロジェクトに応募しました。



現在週二回大学で内視鏡業務に携わり、貴重な症例を経験し、内視鏡技術の習得に向けて研鑽を積んでいます。皆様のご理解、ご協力のおかげで、朝も少し遅めの出勤や、子供の学校行事や病気の際には早退、お休みも可能で、何とか遣り繰り出来ています。

また先延ばしになっていた認定内科医試験を大学院終了後から受験し続けていますが、臨床から遠のき、勉強時間もなかなか確保出来ず苦戦中です。今年長男、次男と続いた授乳生活から解放され、勉強時間を確保しやすくなり、子ども三人を主人に預けて単身で受験してきました。

きらめきプロジェクト二年目の今、自分に自信が持てるようにしっかり働きたいという気持ちが芽生えてきましたが、まだ子ども達に手がかかるため、両立出来るか不安が大きく、いつ踏み出すべきか悩む日々です。



Happy😊

歯科医師

卒後 23 年目の歯科医師です。会社員の夫、7 歳の子供と 3 人家族です。私は学生時から九州大学でお世話になり、歯学研究院で勤務する機会を得て、キャリアを重ねてきました。



ところが、子供が小学校に上がるタイミングで、いわゆる小 1 の壁に直面しました。小学校は、15 時頃に学校が終わり（午前中で終了することや、突然の休校もあり）、学童保育があっても、手厚い保育園とは全く異なることから、小学校入学はどの家庭でも自身のキャリアを考えるタイミングの 1 つになっています。

我が家の場合、実家は頼れず、夫と勤務体制を調整しても育児支援に限界があることや、子供が小学校生活や学童保育になじむかどうか不透明であること、放課後や夏休みなどを一人で過ごすには困難でもあり、・・・家族で熟慮した結果、昨年度よりきらめきプロジェクト所属にキャリアチェンジしました。

非常勤となったことで、小学校と密に連携し、子供に関係する講習会や講演会に参加することができています。保育園時は子供の特性を十分把握していませんでしたが、時間と心に余裕ができ、子供に真摯に向き合っています。子供は、時々問題行動があるものの、小学校に慣れて元気に通っています。また、高齢の義母の生活支援のために、帰省する回数が増えました。

一方、診療面では担当患者の治療を中断することなく、再生歯・インプラントセンターや周術期口腔ケアセンターにて、歯科診療を精力的に行い、講演や学会発表、論文執筆など、キャリアチェンジした歯科医師として得られた時間と機会は大変貴重なものとなっています。

